第VII部門　　**寝屋川市における市民と行政の協働による水辺再生への支援**

摂南大学工学部　学生員　○勝見　卓也
摂南大学工学部　　田中　浩規
摂南大学工学部　正会員　　澤井　健二
寝屋川市下水道室　　上田　　豪

1．まえがき

最近、各地で市民と行政の協働による水辺再生が話題になっている。寝屋川市においては、一昨年、市制50周年を機に「寝屋川再生プランワークショップ」が企画され、寝屋川本川の再生について市民のアイデアが議論されるとともに、「ねや川水辺クラブ」が結成され、実践行動が開始されている。

摂南大学都市環境システム工学科（土木工学科）では、教員や学生がこれらのワークショップやクラブのメンバーとして参加するとともに、卒業研究など、独自の研究としてもこのテーマに取り組んでいる。

2．寝屋川再生プランワークショップ

寝屋川市では、一昨年、市制50周年の記念事業のひとつとして、寝屋川再生プランワークショップが企画され、市の中心部を流れる寝屋川の再生について考える市民を公募したところ、30人の定員に対して60人余の応募があり、6月、7月、9月、11月、1月、2月の6回にわたるワークショップにおいて、市民を中心に寝屋川の現状認識から将来構想まで幅広い議論がなされるとともに、クリーン作戦への参加やマコモやキショウブの植付け実験への参加がなされた。

ワークショップで挙げられた目標は次の4つである。

① 広く市民に受け入れられる川づくりの提案

川に親しみ遊んだ世代、川に近づくことすらできなかった世代、また、興味分野の違うものどうしが、実際に現地へ足を運び、目で見て、対等の立場で活発に意見を出し合う。

② 夢を実現するため、提案から実行へ

寝屋川の自然を回復するため、ヨシ、ガマ、マコモ、ヤナギを使った川づくりなど、自分たちの提案の実現に向けて、現場で汗を流して、作業にも積極的に取り組む。

③ 川づくりから町づくりへ

都市河川における川と人との関わりがどうあるべきかの視点から、川の整備案だけでなく、町全体を視野に入れて川を活かした町づくりを市に提案し、行政との協働を目指す。

④ 川に関わるあらゆる活動を多くの市民と共に親しめる水辺クラブの立ち上げ

市民活動として展開するため、ワークショップの委員だけでなく、広く市民の参加を募り、親水、環境、清掃、歴史・文化と様々な活動をする水辺クラブを立ち上げる。また、河川清掃や水生生物実態調査はもちろん、川下りや、寝屋川の源流域の間伐など市民参加型の取り組みを行い、日常的な市民とのかかわりあいを実現する。

寝屋川再生プランワークショップでは、ワークショップの委員が意見を出し合い、その意見、疑問に対して課題を設けるとともに、寝屋川再生プランとして整備モデル地区を設け、身近な川・きれいな川・生き物と接しられる川・潤いのある川にしようという基本方針が上げられた。重点整備モデル地区としては、寝屋川公園墓地周辺・打上治水緑地の下流周辺・大阪府立高等専門学校周辺・京阪寝屋川市駅周辺・寝屋川と友路岐水路の合流点周辺・寝屋川第10、11水路周辺の6地点が挙げられた。

Takuya KATSUMI, Hironori TANAKA, Kenji SAWAI and Takeshi UEDA

3．「ねや川水辺クラブ」の誕生

前記のワークショップのとりまとめにかかり始めたころ、このワークショップで始まった活動を継続的なものにしていきたいということと、行政からの呼びかけでなく、市民の自主的な活動に展開していきたいということから、「ねや川水辺クラブ」が誕生することとなった。このクラブでは、事務局のほかに、環境部会、清掃部会、親水部会、歴史・文化部会という、４つの部会を設け、全会員がいずれかの部会に属して、議論を深めながら、行動はすべての部会が共同で行うという方針で臨んでいる。既に、講演会、市内の幹線水路と寝屋川本川におけるボート下り、源流探検と間伐体験、生物調査、河岸植栽、寝屋川駅前広場や川沿いの住宅建て替えに伴うワンド整備の提案、河道内の土砂浚渫における砂州の保全提案などを行っており、市民と行政のパートナーシップを精力的に進めている。

4．摂南大学水辺環境創出研究室による支援

摂南大学都市環境システム工学科水辺環境創出研究室（土木工学科水工学研究室）では、以前から独自に寝屋川市内河川の調査研究を進めていたが、一昨年のワークショップ発足を機に、寝屋川市役所との連携を進め、市民ではカバーし難い技術的な側面からの支援を行っている。その第１は、当研究室に事務局を置く淀川愛好会の所有する、Eボートという組み立て式の 10 人乗りカヌーの活用であり、ゼミ生や課外活動団体であるエコシビルの部員がそのセッティングや安全管理を分担している。次に、駅前広場や警官住宅横の水辺整備に関しては、ワークショップで提案されたイメージ図や大阪府の測量図をもとに、立体模型を作成し、市民や行政にわかりやすいツールを提供した。また、寝屋川公園墓地周辺の浚渫工事に関しては、乗用車で運搬できる規模の水理模型を作成し、市民の前で実際に水や土砂を流して現象を観察しながら、よりよい浚渫法を検討できるツールを提供した。

5．あとがき

以上に述べたように、寝屋川市においては、水辺再生の機運が急速に市民の間に高まっており、それに呼応して、市役所や府庁の担当部署においても、その提案を汲み上げる機運が見られる。また、大学はそれを技術的な側面から支援する役割を担っており、学・官（公）・民のパートナーシップがうまく機能しているように思われる。

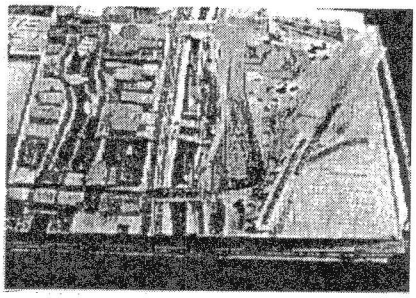

写真１　寝屋川市駅前整備案模型

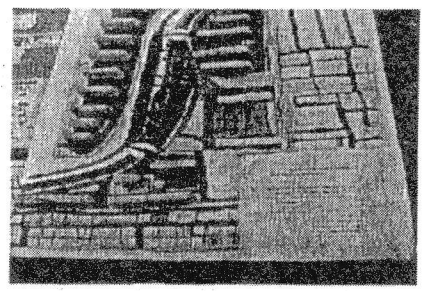

写真２　大阪府立高等専門学校周辺整備案模型

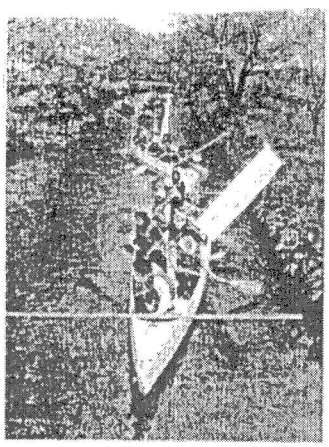

写真３　桜川下り

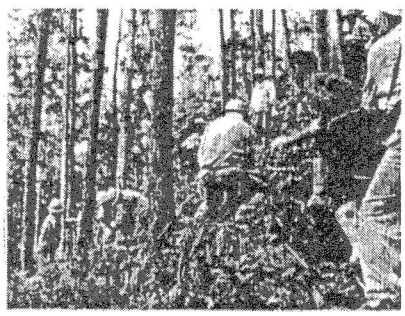

写真４　間伐作業（上流との交流）

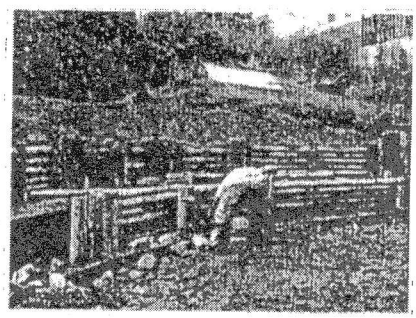

写真５　松杭を使って川づくり